

# 京都大学大学院

# 教育学研究科紀要

## 第66号

スタンリー・カベルの「承認」概念が拓く道德教育の展望

「教授学、カリキュラムに会う」プロジェクトの到達点

19世紀イギリス自由教育論争の再整理

リー・ショーマンによる教師の知識論に関する再検討

Educational Implications of E. Fromm's View of "Ends"

私と汝が「絶対の他」であるということ

発達心理学における育児感情研究への家族社会学的視点の導入

「言いえないもの」と道德的主体

存在論から見た自立・自律

ロールシャッハ法における対人恐怖の理解

里親家庭支援の現状と課題

語りの生成の場としての質的研究の臨床的意義

“悪”はどのように在るのか

# 京都大学大学院 教育学研究科紀要 第66号

## 目 次

### 論 文：

スタンリー・カベルの「承認」概念が拓く道徳教育の展望……………	曾我部和馬	1
－日常性・懐疑論との関連から－		
「教授学、カリキュラムに会う」プロジェクトの到達点……………	市川 和也	15
－アメリカのカリキュラム研究とドイツ教授学の結節点をめぐって－		
19世紀イギリス自由教育論争の再整理……………	本宮裕示郎	29
リー・ショーマンによる教師の知識論に関する再検討……………	若松 大輔	43
－理論構築の過程に着目して－		
Educational Implications of E. Fromm's View of "Ends": Reference to J. Dewey's Idea of the Means-Ends Relationship……………	MORITA Kazunao	57
私と汝が「絶対の他」であるということ……………	高谷 掌子	69
－木村敏は西田幾多郎の「私と汝」をどう読むか－		
発達心理学における育児感情研究への家族社会学的視点の導入……………	大澤 直樹	83
－歩行開始期の親の育児感情と母親／父親の動機づけの差異の解明に向けて－		
「言えないもの」と道徳的主体……………	浅井 健介	97
－ベンヤミンのブーバー宛書簡と初期断章群における道徳の問題－		
存在論から見た自立・自律……………	森 七恵	111
－M・ハイデガー『存在と時間』の自己論を手がかりに－		
ロールシャッハ法における対人恐怖の理解……………	元木 幸恵	125
里親家庭支援の現状と課題……………	佐々木大樹	137
語りの生成の場としての質的研究の臨床的意義……………	野田 実希	151
－臨床心理学における質的研究と心理臨床の差異と重なりに着目して－		
“悪”はどのように在るのか……………	長谷 雄太	165
－主体・客体の観点を中心に－		
連続する箱庭制作におけるプロセスの検討……………	不破早央里	179
－3回の箱庭制作を通して－		
発達障害に関する描画研究の概観……………	文山 知紗	193
－風景構成法に焦点をあてて－		
精神科グループホームという〈場〉に関する臨床心理学的考察……………	豊原 響子	205
－個別心理療法・精神科デイケアとの比較検討から－		
「化け込み記者」下山京子再考……………	松尾 理也	219
－初期『大阪時事新報』の紙面から－		

エリート大学生の文化的教養習得に対する歴史的考察……………	呉	江城	233
- 1980年代の「文化熱」の分析を手がかりに -			
中国高等職業教育の提供における業界団体の役割……………	張	潔麗	247
1930年代中国におけるモダンガールの身体表象……………	呉	桐	261
- 女性誌『玲瓏』を中心に -			
結婚情報のメディア史……………	彭	永成	275
- 雑誌『ゼクシィ』を中心に -			
働く青年の学びに果たす学習の「場」の役割……………	奥村	旅人	289
- ラボール学園の学習者の体験を手がかりに -			
「貫戦的」人生パターンと戦後階層システムの形成……………	岩井	八郎	303
- SSM 調査の再分析 -			
「知識人」漱石から「作家」漱石へ……………	椎名	健人	325
- 「木曜会」にみる師弟関係の構造と変容 -			
1990年代以降の高卒者の進路分化とキャリア……………	園部	香里	349
- 教育経験と初職の地域差に注目して -			
大学教員の教師としての専門職像とFDにおける課題……………	香西	佳美	363
- 初等中等教育における教師の専門職像との比較を通じて -			

**資 料：**

研究費……………	377
プロジェクト活動	
教育実践コラボレーション・センター……………	381
グローバル教育展開オフィス……………	385
博士論文……………	389
修士論文……………	391
卒業論文……………	393
執筆者一覧……………	396
京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程……………	397

Stanley Cavell's "Acknowledgment" and Its Implications for Moral Education: In Relation to the Ordinary and Skepticism .....	SOGABE Kazuma	1
Research on "Didaktik meets Curriculum" Project: Focus on the Relation between Curriculum Studies and Didaktik .....	ICHIKAWA Kazuya	15
Re-examining the Controversy over Liberal Education in England in the 19 <sup>th</sup> Century .....	HONGU Yujiro	29
Rethinking Shulman's Theory of Teacher Knowledge: Process of Theory Development .....	WAKAMATSU Daisuke	43
E. フロムの「目的」観の教育学的含意 - J. デューイの目的-手段論を手がかりにして -	森田 一尚	57
How Can I Be the "Absolute Otherness" for You?: Kimura Bin's Interpretation of Nishida Kitaro's <i>I and You</i> .....	TAKAYA Shoko	69
Introduction of Perspective of Family Sociology to Parenting Affect/Emotion Studies in Developmental Psychology: Toward Understanding Affective Structure in Toddler's Parents and Difference in Maternal/Paternal Motivation .....	OSAWA Naoki	83
"The Unsayable" and the Moral Subject: Benjamin's Thoughts on Morality in His Letter to Buber and His Early Fragments .....	ASAI Kensuke	97
Self-help and Autonomy from an Ontological Perspective: According to Heidegger's Concept of Self in "Sein und Zeit" .....	MORI Nanae	111
Comprehension Anthropobia in the Rorschach Method .....	MOTOKI Sachie	125
Practices and Issues of Support in Foster Care .....	SASAKI Daiki	137
Clinical Significance of Qualitative Research as a Field of Narrative Generation: Differences and Overlap of Narrative in Qualitative Research and Psychotherapy .....	NODA Miki	151
How Does "Evil" Exist? : A Review from the Viewpoints of Subject and Object .....	NAGATANI Yuta	165
Continuous Sandplay Construction Process .....	FUWA Saori	179

Overview of Drawing Studies on Developmental Disorders: Focus on the Landscape Montage Technique	..... FUMIYAMA Chisa	193
Consideration of Clinical Psychology about “Situation” of Group Home for People with Mental Disabilities: Comparative Studies of Personal Psychotherapy and Psychiatric Day Care	..... TOYOHARA Kyoko	205
Rethinking Kyoko Shimoyama, the Reporter in Disguise: From the Articles of Early Osaka Jiji Shimpō	..... MATSUO Michiya	219
Historical Research on the Cultural Accomplishments of Elite College Students: Based on an Analysis toward “Cultural Boom” in the 1980s	..... WU Jiangcheng	233
Roles of Industry Organizations in Providing Higher Vocational Education in China	..... ZHANG Jieli	247
Chinese Modern Girls’ Body in 1930s: Focus on the Case of <i>LinLoon</i>	.....WU Tong	261
Media History of Marriage Information: Focusing on Magazine <i>Zexy</i>	..... PENG Yongcheng	275
Roles of “Field” of Learning for Young Working People’s Learning: A Case of “Labor Gakuen”	..... OKUMURA Takahito	289
The “Transwar” Patterns of Life and the Impact on Forming Postwar Stratification System: Analysis of Social Stratification and Mobility Survey Data	..... IWAI Hachiro	303
Transition from “Intellectual” <i>Sōseki</i> to “Writer” <i>Sōseki</i> : Construction and Transformation of mentor relationship in “Mokuyoukai”	..... SHIINA Kento	325
Career Differentiation of High School Graduates Since the 1990s: A Focus on Educational Backgrounds, First Job, and Regional Differences	..... SONOBE Kaori	349
A Study of the Concept of Teaching Profession and Problems with Faculty Development in Higher Education: Through Comparison of Primary/Secondary Education	..... KOZAI Yoshimi	363

研 究 費

研 究 費

年月日	研 究 課 題 名	氏 名
2019.4.1	基盤研究 (A) 身体的表象から自他分離表象にいたる発達プロセスの解明	明和 政子
2019.4.1	基盤研究 (B) 戦後東アジア諸地域における教育の比較史的分析—冷戦と植民地主義に着目して—	駒込 武
2019.4.1	基盤研究 (B) 21世紀型コンピテンシー育成のためのカリキュラムと評価の開発	矢野 智司
2019.4.1	基盤研究 (B) なつかしさ感情の機能と個人差：認知・神経基盤の解明と応用	楠見 孝
2019.4.1	基盤研究 (B) 戦後日本における政治家・財界人の教育観に関する教育社会学的研究	稲垣 恭子
2019.4.1	基盤研究 (B) 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究	南部 広孝
2019.4.1	基盤研究 (B) パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム・マネジメントの改善方略の開発	西岡加名恵
2019.4.1	基盤研究 (B) ゼロ年代以後の教育歴とライフコースの変化に関するパネル調査研究	岩井 八郎
2019.4.1	基盤研究 (B) 養育行動が幼児の実行機能を媒介して社会的行動に寄与する過程の発達認知神経科学研究	森口 佑介
2019.4.1	基盤研究 (B) 批判的犯罪学の観点をふまえた非行からの離脱過程に関する研究	岡邊 健
2019.4.1	基盤研究 (B) 「資質・能力」育成を促進する教員研修プログラムの開発	矢野 智司
2019.4.1	基盤研究 (B) 「畏敬」の心理・生物学的基盤とその効用に関する構成論的研究	野村 理朗
2019.4.1	基盤研究 (C) ケアとスピリチュアリティの教育人間学的解明 - 女性宗教者への聞き取り調査を中心に	西平 直
2019.4.1	基盤研究 (C) 音韻的作動記憶における系列情報保持を支える時間構造の長期知識	齊藤 智
2019.4.1	基盤研究 (C) 心理アセスメントにおけるスーパービジョンシステムの構築	高橋 靖恵
2019.4.1	基盤研究 (C) 〈哲学の女性性〉とアメリカ哲学のグローバルな再生：政治教育の実践哲学研究	齋藤 直子
2019.4.1	基盤研究 (C) 教師力（タクト）熟達の日独比較—学校日常の緊急性・不確実性対処に関する実証研究	鈴木 晶子

2019.4.1	基盤研究 (C) 森有礼文部大臣時代の教育政策に関する総合的研究—「森文政」期像の再構築—	田中 智子
2019.4.1	基盤研究 (C) 国際博覧会条約 (1928 年) 及び博覧会国際事務局 (1931 年) の成立に関する研究	佐野真由子
2019.4.1	基盤研究 (C) 大正・昭和初期都市新中間層における理想的人間像の形成と変容	竹内 里欧
2019.4.1	基盤研究 (C) 教育成果の質的測定を活用した教員・学校・教委連携型教育改善システムの開発的研究	服部 憲児
2019.4.1	基盤研究 (C) 非英語圏トランスナショナル高等教育の展開に関する国際比較研究	杉本 均
2019.4.1	基盤研究 (C) 資質・能力を育成する授業づくりを軸にした学校改善の方法論に関する開発研究	石井 英真
2019.4.1	基盤研究 (C) 共感性の発達基盤に関する縦断データを用いた行動遺伝学的研究	高橋 雄介
2019.4.1	基盤研究 (C) 特設 紛争の発生とその緩和に関わる人間本性の理解 —心理・神経・遺伝学的研究—	野村 理朗
2019.4.1	国際共同研究強化 (B) 他なるものとの共存に向けた政治教育：日本先導によるアメリカ実践哲学の国際対話研究	齋藤 直子
2019.4.1	国際共同研究強化 (B) 認知リソース概念の誤謬に挑む国際共同研究	齊藤 智
2019.6.28	挑戦的研究 (萌芽) ビルドゥングスロマンと「女性の生き方」の表象に関する比較文化社会学研究	稲垣 恭子
2019.6.28	挑戦的研究 (萌芽) 対人相互作用における内受容—外受容感覚の統合とその発達機序の解明	明和 政子
2019.4.1	若手研究 (B) 宗教を取り入れた道德教育による人間形成の理論と実践に関する研究	広瀬 悠三
2019.4.1	若手研究 (B) 近世教育メディア史における「無料」の価値—「施印」に着目して	ファンステーン ンパール ニールス
2019.4.1	若手研究 (B) Is An Alternative Concept of Learning Driving East Asian Academic Achievement? Comparisons of PISA Performance with Implications for Policy Reforms	Rappleye Jeremy
2019.4.1	若手研究 (B) Round Study の有効性の検証と評価シートの開発・効果検討	黒田真由美
2019.4.1	若手研究 (B) 図書館の社会的責任に関する戦後史研究	福井 佑介

研 究 費

2019.4.1	研究活動スタート支援 海外に長期滞在する日本人家庭の心理社会的適応	安藤 幸
2019.4.1	研究活動スタート支援 視覚-触覚間統合にかかわる神経応答の敏感期とそのメカニズムの解明	田中友香理
2019.8.30	研究活動スタート支援 教育モデルの国際移動メカニズムの検証：EDU—Port を一例として	高山 敬太
2019.8.30	研究活動スタート支援 国際バカロレアの教育方法導入の意義と課題—社会科系科目に焦点を合わせて	次橋 秀樹
2019.8.30	研究活動スタート支援 呼吸波形を用いた「経験にありのままに気づく能力」の生理指標の開発	藤野 正寛
2019.4.1	特別研究員奨励費 効果的な単位認定型高大接続プログラムの運営形態に関する日米比較研究	西川 潤
2019.4.1	特別研究員奨励費 社会的場面におけるワーキングメモリ機能とその認知的基盤	石黒 翔
2019.4.1	特別研究員奨励費 モンゴルの高等教育における大学の管理運営の特色	Jargalsaikhan Jargalmaa
2019.4.1	特別研究員奨励費 協力する動機の起源：乳児による援助行動を駆動する心理・神経メカニズムの実証的検討	Meng Xianwei
2019.4.1	特別研究員奨励費 自伝的記憶への他者視点を用いたメタ認知的再評価に関わる神経基盤の解明	塩田 翔一
2019.4.1	特別研究員奨励費 虐待の世代間伝達に関する心理・生理学的検討	平岡 大樹
2019.4.1	特別研究員奨励費 記憶の意図的な抑制メカニズムの検討	西山 慧
2019.4.1	特別研究員奨励費 韓国ナショナリズムと対日ノスタルジア研究：「嫌悪」と「親密」の相互依存関係性から	趙 相宇
2019.4.1	特別研究員奨励費 1950年代前半における「子どもを守る」運動の射程	山口 刀也
2019.4.1	特別研究員奨励費 アメリカにおける作文教育の検討：技能教授と生活表現の統合	森本 和寿
2019.4.1	特別研究員奨励費 言語的機能が自己の認知に及ぼす影響の解明：言語陰蔽効果パラダイムによる検討	波多野 文
2019.4.25	特別研究員奨励費 身体技法の習得プロセスの分析を通じた心身問題の克服	Legendre Alexandre Michel
2019.4.25	特別研究員奨励費 自然災害をめぐる知とメディアについての歴史社会学的研究	水出 幸輝
2019.4.25	特別研究員奨励費 ドイツにおける教育課程論の史的展開	市川 和也

2019.4.25	特別研究員奨励費 フロイトの教育思想—「規範と欲望」をめぐる道徳教育の基礎研究	後藤 悠帆
2019.4.25	特別研究員奨励費 スキル形成理論に基づく女性の教育歴・資格取得・職業的キャリアに関する実証研究	佐野 和子
2019.4.25	特別研究員奨励費 母子の身体感覚の個人差が社会的認知発達に与える影響—授乳場面に着目して	松永 倫子
2019.4.25	特別研究員奨励費 畏敬の念の負の側面に関する研究—個体と環境の相互作用の観点から—	高野 了太
2019.4.25	特別研究員奨励費 人生全体のウェル・ビーイングの評価：幸せの時間パターンに対する選好分析を通して	金子 迪大
2019.4.25	特別研究員奨励費 無条件の受容の臨床教育学—ハイデガー「共存在」概念を手がかりに	森 七恵

教育実践コラボレーション・センター  
「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究を目指して」

〈活動概要〉

平成 19 年度から教育学研究科では特別教育研究経費（教育改革）による「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、教育実践コラボレーション・センターとして、さまざまな活動をおこなってきている。

教育実践コラボレーション・センターの目的は、現場から持ち込まれた具体的な問題に対し、異分野融合チームを組織するなどして、教育学研究科としての組織的な対応をコーディネートすることにある。その際、子どもをめぐる教育問題の中心を「生命性を深めること」（心の問題）と「有能性を高めること」（学力問題）という 2 つの軸として取り出し、そのトータルな育成の方法を探る。また、教育研究におけるマクロ的アプローチ（教育制度学や教育社会学や比較教育学）とミクロ的アプローチ（認知心理学や心理臨床学や教育哲学）を統合しつつ研究を進めている。

平成 25 年度からは科学研究費補助金（基盤研究 A）が採択され、「学校を中心とする教育空間における力動的秩序形成をめぐる多次元的研究」を課題とし、活動した。現在、校内暴力、不登校、学級崩壊、いじめなどの報道が毎日のようにみられる。そしてこれらは、学校教育の秩序を揺るがす問題だと定義され、それへの対応として、秩序から逸脱した人や状態をどのように秩序の中に回収するのか、乱れた秩序をどのように再び平衡に戻すのかということが考えられてきた。しかしながら現在、この前提が崩れはじめ、学校のみならず、地域・社会、家庭においても、これまでの秩序に戻せばいい、という発想ではうまくいかなくなっているのが現状ではないだろうか？グローバル化や電子メディア空間の影響もあって、既存の秩序への再編という戦略がもはや無効になっていると言っても過言ではないように思う。そこで、この研究課題においては、学校、地域・社会、家庭、電子空間といった複数の空間での人々の相互作用の在り方を解明し、秩序のゆらぎがどのようなものであるかを明らかにするとともに、その中で、どのような秩序が動的に、新たに、立ち上がってくるのかということを探求するために、実践・研究を行ってきた。

本年度は、これまでの研究やアウトリーチ活動を継続するとともに、これまでに得られた知見や経験を学際的に統合するため、異なる分野の教員が共に議論する「知的コラボの会」に力を入れてきた。

また、教育実践コラボレーション・センターの一組織である E.FORUM（教育研究開発フォーラム）は、現職教員の力量向上のために、研修やセミナーを提供するとともに、学校現場の課題解決に資するための研究開発を推進するネットワーク構築をめざしている。

〈講演会・シンポジウム・ワークショップなど〉(2019年4月1日～2020年3月31日)

環境教育ワークショップ (E.FORUM 後援)

「学校での『気候変動教育』を考えよう！」

- 日時：2019年5月6日(祝・月) 14時00分～16時00分
- 場所：京都大学本部構内 総合研究5号館2階 大講義室

研究会 (E.FORUM 後援)

「人工知能と教育～学習者デジタル教科書導入の先にある教育現場を考えよう」

- 日時：2019年6月8日(土) 13時00分～17時00分
- 場所：京都大学教育学部本館1階 第1会議室

第29回 知的コラボの会「描画からみる心身症者のこころ」

- 日時：2019年6月27日(木) 15時00分～14時30分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 話題提供：梅村高太郎(京都大学)

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修

- 日程：2018年8月17日(土)、18日(日)
- 場所：京都大学吉田キャンパス 人間・環境学研究科 地下大講義室
- 講師：盛永俊弘(京都大学)、田中容子(京都大学)、北原琢也(京都大学)、桑原知子(京都大学)、西岡加名恵(京都大学)、石井英真(京都大学)、服部憲児(京都大学)

学校整備のボランティアおよび児童生徒の支援

- 日程：2019年9月9日(月)～12日(木)
- 場所：長崎市立池島小学校
- 担当：服部憲児(京都大学)ほか学部生

E.FORUM オンラインコース「教育評価の基礎講座」

- プログラム：全5回  
第1回 2019年9月18日(水)～、「2017・2018年改訂学習指導要領の特徴」  
第2回 2019年10月16日(水)～、「『目標に準拠した評価』の基本的な考え方」  
第3回 2019年11月20日(水)～、「パフォーマンス課題の作成」  
第4回 2019年12月18日(水)～、「ループリックとポートフォリオの活用」  
第5回 2020年1月22日(水)～、「2019年改訂指導要領のポイント」  
講師：第1回～第4回 西岡加名恵(京都大学)、第5回石井英真(京都大学)

**E.FORUM** ブレンディッドコース「実践づくりフォローアップ講習」

- 日程：2019年9月18日（水）、オリエンテーション（オンライン）  
2019年10月19日（土）、実践交流会（オンキャンパス）  
2019年11月13日（水）～、講義（オンライン）  
2019年12月14日（土）、実践交流会（オンキャンパス）  
2020年1月15日（水）～、講義（オンライン）  
2020年3月28日（土）、実践交流会（オンキャンパス/オンラインミーティング）
- 講師：オンキャンパス/オンラインミーティング・盛永俊弘（京都大学）、田中容子（京都大学）、北原琢也（京都大学）、オンライン・石井英真（京都大学）

課題研究セミナー

- 日程：2019年9月25日（水）
- 場所：福岡県立京都高等学校
- 講師：服部憲児（京都大学）

第30回 知的コラボの会「心理臨床における女性性の歴史—精神分析を中心に—」

- 日時：2019年10月10日（木）15時00分～17時00分
- 会場：京都大学総合研究2号館 第8演習室
- 話題提供：西見奈子（京都大学）

北京師範大学・京都大学院生学術交流2019

- 日時：2019年10月31日（木）～11月3日（日）
- 場所：中国・北京師範大学
- 主催：中国・北京師範大学教育学部、教育実践コラボレーション・センター

第31回 知的コラボの会「PISA『読解力』再考：サンプル問題作成者の経験から」

- 日時：2019年12月19日（木）14時00分～16時00分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 話題提供：高山敬太（京都大学）

第32回 知的コラボの会「人工知能の現状とその産業応用や教育への影響について～医療・ライフサイエンス分野での応用を中心に～」

- 日時：2020年2月27日（木）16時30分～18時30分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 話題提供：野里博和（国立研究開発法人産業技術総合研究所）

教育実践コラボレーション・センター成果発表会

- 日時：2020年3月1日（日）13時30分～16時20分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 発表者：岩井有香（京都大学研修員）、中來田敦美（京都大学院生）、渡邊智也（京都大学院生）、山本匡哉（京都大学院生）、小柳亜季（京都大学院生）、張潔麗（京都大学院生）
- コメンテーター：相馬直子（京都府教育庁管理部総務企画課）、西平直（京都大学）

E.FORUM 講演会「先生が生まれ教育が始まる」（最終講義）

- 日時：2020年3月28日（土）14時00分～16時00分
- 会場：京都大学吉田キャンパス国際科学イノベーション棟5階
- 講師：矢野智司（京都大学大学院教育学研究科）

## グローバル教育展開オフィス

### グローバル教育展開オフィス

グローバル教育展開オフィス（以下、オフィス）は、本研究科の学際的研究教育拠点として、平成 29 年度の設置以来、グローバル時代の教育課題に取り組み、その成果を国内外に発信していくことを目的とし、積極的な研究教育活動を行っている。

オフィスは、「創生開発ブランチ」と「国際教育支援ブランチ」の 2 部門からなる。「創生開発ブランチ」は、オフィスの統括と研究プロジェクトの推進を主に担当し、一方で「国際教育支援ブランチ」は、海外研究機関との学術交流の展開や大学院を中心とするグローバル教育の企画と実施を主に担当している。前々年度に着任した「国際教育支援ブランチ」担当の講師に加え、今年度には「創生開発ブランチ」の担当およびオフィスの統括を行う教授（兼、オフィス長）が着任した。さらに、本研究科の若手重点戦略プロジェクトの一環で、オフィスの事業運営を支援する助教が着任したことにより、オフィスの運営体制が整い、研究教育活動を加速化させることにつながった。

オフィスは今年度、以下に示すさまざまな活動に取り組んだ。

#### <「日本型教育」プロジェクト>

オフィスが主導し、「新しい理論的・実践的基盤に立った教育文化・知の継承支援モデルの構築と展開」をテーマにした「日本型教育」プロジェクトを進めている。このプロジェクトの目的は、日本の教育を支えてきた文化のしほみをグローバルな視野から問い直すことにより、教育の新しいグローバル・スタンダードとそれに基づく教育モデルの可能性を、理論・実践の両面から探究し、その成果を国内外に発信していくことにある。理念モデルと、「発達を軸にした先端的理論と支援モデル」、「伝統文化から先端技術まで含む学習環境の変容と支援モデル」、「世代間、世代内の関係性の歴史的変容と支援モデル」の 3 つの支援モデルを軸に、それぞれのチームが研究を進めており、チーム内外のみならず、国内外の研究者を招いて研究会を行い、活発な議論を展開してきた。また、当研究科にゆかりのある研究者が著した研究論文を厳選し、「方法としての京都」というコンセプトのもと、英語と中国語に翻訳して海外研究者に向けた教育研究資料として編纂している。京都哲学や河合隼雄の著作らに代表される当研究科の知的伝統を前面に出した編集を予定している。

#### <講演会、セミナーおよびシンポジウム>

レクチャー・シリーズ第 1 回（中止）

「Levinas and the Eastern Thought」

- 日時：2019 年 5 月 21 日（火）14 時 30 分～16 時 30 分
- 会場：京都大学教育学部本館 1 階 第一会議室
- 講演者：チョウ・グォピン 氏（アメリカ・オクラホマ州立大学教育・健康・航空学部 教授）

経営管理大学院・教育学研究科 ジョイント・セミナー（※1）

「次世代に求められる『知』と教育の接点」

- 日時：2019 年 6 月 4 日（火）14 時 30 分～18 時

- 会場：京都大学百年時計記念台記念館 2階 国際交流ホール I
- 基調講演者：アスリー・チョルパン 氏（京都大学経営管理大学院 教授）、山内裕 氏（京都大学経営管理大学院 准教授）、アレキサンダー・ヴルフ 氏（SRH ベルリン大学 教授）、楠見孝 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）
- モデレーター：鈴木晶子 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）

（※1）京都大学経営管理大学院との共催

レクチャー・シリーズ第2回<sup>（※2）</sup>

「アメリカにおける児童福祉実務の最前線—虐待や犯罪被害からの保護を中心に」

- 日時：2019年6月13日（木）17時～18時
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 講演者：ディクリシオ恵美 氏（アメリカ・ペンシルバニア州社会福祉局社会福祉サービス部門 マネージャー）

（※2）京都大学大学院教育学研究科自己点検・評価委員会との共催

レクチャー・シリーズ第3回（中止）

「Mexican Education Reform: An Intramural Affair」

- 日時：2019年11月8日（金）15時30分～17時
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 講演者：カルロス・オルネラス 氏（メキシコ・メトロポリタナ自治大学人文社会学部 教授）

レクチャー・シリーズ第4回

「Global Learning Metrics: Historical Roots, Current Constructions, Notable Critiques」

- 日時：2019年11月21日（木）17時～18時30分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 講演者：アaron・ベナヴォット 氏（アメリカ・ニューヨーク州立大学オルバニー校教育学研究科 教授）

レクチャー・シリーズ第5回

「Researching and Theorizing Education Policy Situated in/against the Changing Spatialities of Globalization」

- 日時：2019年12月16日（月）15時～17時
- 会場：京都大学国際科学イノベーション棟5階 会議室 a・b
- 講演者：ボブ・リンガード 氏（オーストラリア・カソリック大学 教授 およびクイーンズランド大学 名誉教授）

レクチャー・シリーズ第6回

「幼児教育のエスノグラフィ：内と外から見た日本の教育研究への回想」

- 日時：2019年12月18日（水）16時30分～18時

## グローバル教育展開オフィス

- 会場：京都大学教育学部本館 1階 第1会議室
- 講演者：林安希子 氏（明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 助教）、ジョセフ・トービン 氏（アメリカ・ジョージア大学教育学部 教授）
- パネリスト：グレッグ・プール 氏（同志社大学 教授）、熊谷篤子 氏（泉山幼稚園 前園長）、西平直 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）

### レクチャー・シリーズ第7回

「松木邦裕 x 西平直 『稽古と無心』の対話」

- 日時：2019年12月25日（水）13時～16時30分
- 会場：京都大学教育学部本館 1階 第1会議室
- 講演者：松木邦裕 氏（京都大学大学院教育学研究科 名誉教授）、西平直 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）
- パネリスト：高橋 靖恵 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）、西見奈子 氏（京都大学大学院教育学研究科 准教授）

### 国際シンポジウム<sup>(※3)</sup>（延期）

「Why Study Japan Now?: Towards a Global Conversation on the Social Sciences and Humanities in Dialogue with Kyoto」

- 日時：2020年3月13日（金）
- 会場：オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ
- 講演者：西平直 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）、佐野真由子 教授（京都大学大学院教育学研究科 教授）
- モデレーター：苅谷剛彦 氏（オックスフォード大学ニッサン日本問題研究所 教授）、高山敬太 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）

(※3) オックスフォード大学ニッサン日本問題研究所との共催

### <グローバル教育科目>

「グローバル教育科目」は、修士課程および博士後期課程の院生を対象に、グローバルな視野で研究や実践を行うためのスキルを身につけることを目的としている。「グローバル教育科目群」には、「国際合同授業」、「国際教育研究フロンティア」、「国際インターンシップ」、「国際フィールドワーク」が含まれる。オフィスでは、これらの科目の運営・実施の支援を通して、院生に学びの機会を提供している。

### <大学院生への支援>

オフィスでは、院生の国内外における積極的な研究教育活動を支援している。今年度も、「グローバル教育科目」を履修する学生、国際交流事業に参加する学生および国際学会において口頭またはポスター発表を行う学生を対象に、旅費の一部を補助した。また、院生の研究の国際化を支援する新たな取組では、国際学会での発表の構想やリハーサル、英語論文の執筆、ジャーナルの選び方や投稿など、基礎から応用まで幅広く対応していく。

<国際交流>

オフィスでは、本研究科における、学術交流協定校との国際交流事業を支援している。今年度は、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンおよびハワイ大学マノア校での国際合同授業の実施、ランカスター大学との研究交流、ドルトムント工科大学への本研究科院生の派遣および同大学教員の受け入れや、北京師範大学との学生交流を支援した。また、中国教育科学研究院およびハワイ大学マノア校をそれぞれ訪問し、学術交流協定の更新と今後の展開について打合せを行った。

また、オフィスは Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program) と連携し、7月1日から12日までの日程で台湾の建国高校、国立台湾師範大学附属高校、中山女子高校の校長および教諭を受け入れた。本研究科教員の協力を得て、日本の教育システム、学校生活、いじめなどの教育問題、高大接続や教育制度の国際比較、学校における心理カウンセリングの役割などについて講義を行うとともに、京都市内の高校や博物館の視察を行った。

7月26日には、タイ・チュラロンコン大学の国際担当学長補佐および課長らの訪問を受け、グローバル教育戦略や学生交流の可能性について意見交換を行った。同大学とは、全学レベルの学術交流協定を締結しており、本研究科においても今後のさらなる教育研究連携が期待される。

令和元年度 学位（博士）授与者及び題目一覧

論文博士 ※令和2年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
片 山 知 子	心的外傷と精神病におけるイメージの心理療法 －その回復過程の異同に関する一考察
川 崎 良 孝	開かれた図書館とは：アメリカ公立図書館と開架制
小 山 智 朗	心理臨床における＜私＞を生きるという視点の意味 －「水平性をめぐる動き」と「垂直性をめぐる動き」から－
萬木(岩宮)恵子	事例からみる現代の思春期心性
藤 巻 る り	未分化な体験世界を生きる子どもとのプレイセラピーにおける治療者の意識過程
西 村 拓 生	「美と教育」という謎 －プリズムとしてのシラー『美育書簡』－
勝（橋本）尚子	心理療法と現代の意識 －「非二」という視点からの考察－
高 柳 充 利	Reconsidering Teacher Education from the Perspective of Stanley Cavell's Emersonian Moral Perfectionism: Toward the Re-education of a 'Teacher as Reader'
濱 貴 子	戦前期日本における職業婦人イメージの形成と変容に関する歴史社会学的研究
高 橋 悟	自閉的なクライアントの心理療法における自他の分離に関する研究 －ボールのやり取りに着目して－
田 中 秀 紀	遊戯療法における遊ぶことについての心理臨床学的研究
高 石 浩 一	母娘関係の臨床心理学的考察 －問われるべきその現代的意義－
梅村(千秋)佳世	自我体験の語りの研究 －他者性の現れという視点から－

課程博士 ※平成 年 月授与まで

氏 名	論 文 題 目
廖 于 晴	台湾における高等教育多様化の論理
奥原(渡辺)雅幸	連邦制国家インドにおける高等教育の展開 － 1990年代以降の変化に着目して－
SADHVANDI NIKAN	An Empirical Study on the Effects of Pedagogical Intervention on Improving the Quality of Peer Assessment in Massive Open Online Courses
新 屋 裕 太	早産児における自発的啼泣の特性と認知・言語機能の発達の関連
大 貫 守	アメリカ合衆国における科学教育カリキュラムに関する研究 －科学的探究から科学的実践への展開に着目して－
片山(長谷)綾子	心理臨床における環境的アプローチに関する実践研究 －臨床家のかかわりをめぐる精神分析的考察－
福 嶋 祐 貴	米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜 －「協同学習」および「協調学習」の成立と展開－
西 郷 南海子	ジョン・デューイと「生活としての芸術」 － 1920年代から 30年代の進歩主義的教育哲学と実践
門 松 愛	バングラデシュにおける無償の就学前教育政策の構造的特徴と課題
平 岡 大 樹	乳児の泣き声への反応に関わる心理・生理学的検討
不 破 早央里	箱庭療法における主観的体験と治癒的要因に関する研究 －力動、連続性、プロセスの視点から－
辻 香 代	母語使用を取り入れた外国語ライティング教育に関する研究
野 田 実 希	職業人の病休体験についての臨床心理学的研究 －自己と「語り」をめぐる質的研究の展望から－
鍛 冶 美 幸	心理臨床における身体性の理解と実践
木 下 浩 一	商業教育局における社会教育と教養の系譜

## 修士論文題目一覧

氏名	論文題目
寺坂翔平	「多様な学びの場」再考 －インクルーシブ教育における同化と異化－
張彩薇	戦後初期台湾の知識人における「植民地解放」の想像 －自治運動と「第三勢力」路線の形成に着目して－
石田智敬	ロイス・サドラーによる教育評価論の意義と課題
鎌田祥輝	英国における STS 教育論の展開 －J・ソロモンの所論に着目して－
川畑由美子	高校生の親準備性の発達 －保育実習経験および個人特性との関連
坂田千文	Attention Allocation in Shared Attentional Field With a Co-actor
本間みなみ	母子間相互作用のパターンと表情認知との関連についての実証的検討
山本匡哉	数学教育再構成運動の史的展開
祁白麗	藤岡貞彦による学校論の意義と課題 －環境教育のあり方に焦点を合わせて－
加藤里奈	中期レヴィナス思想における「自由」の検討 －「恥」を起点にして－
齋藤堯仁	ラベリング論における社会モデル：デュルケム犯罪論との比較検討
田岡大樹	無謀な賭けの発生メカニズムとその時間的変化
番原基允	裁判員の量刑判断に影響を及ぼす要因
渡邊智也	戯曲読解が社会的能力に及ぼす影響
AGUSTINA LUCIA YOHENA	Why do students decide to continue their studies? The role of perceived instrumentality in influencing self-regulated learning and study performance
ARAYA OROZCO CLAUDIA	The Hebb Repetition Effect in a Complex Span Task
孫詩榕	Schadenfreude in friendship: Explore the mechanism of feeling pleasure along with guilt
大村枝里	ギャンブル嗜癖の両義性 －自己にもたらす治療的側面と衰亡的側面に着目して－
境明穂	青年期における「甘え」「甘やかし」 －ロールシャッハ法による検討－
嶋見優希	感情表現の困難さについて －アレキシサイミア傾向と愛着スタイルの関連に注目して－
豊田祥子	アイデンティティ確立に関する心理臨床学的検討： 早期完了型の理解を中心として
西村知紗	大学生の友人関係における「キャラクター」に対する意識に関する研究 －過剰適応傾向との関連から－
平子侑里絵	大学生における一人でいられる能力と主体的体験の在り方との関係 －質問紙と TAT を用いて－
藤本航平	自閉スペクトラム症者の言語的特徴について －認知言語学的観点から－
星野春香	「一人のセラピストが複数のクライアントを担当すること」に関する探索的研究

松本知香	高齢者のアイデンティティについての20答法を用いた心理臨床学的検討
松本優馬	青年期における誇大性自己愛および過敏性自己愛に関する研究 - 質問紙法と描画法を用いた検討 -
三田桂子	生きることの苦悩と支えの関係についての研究 - 画家 香月泰男 シベリア・シリーズ作品の創造過程を辿って -
山下環奈	学生相談機関に対する援助要請行動を促進・阻害する要因の検討 - あいまいさへの態度、学生相談機関イメージに着目して -
尾形はづき	2000年代以降の習熟度別教育の展開 - 「劣等感」を避ける教師の感情に着目して -
比護遥	大衆読者の消費的発見と政治的動員：1930年代中国の読書雑誌
許讚榮	ノンセンス文学にみる死のタブー視からの解放と隠蔽
王心月	中国における障害児教育の現状 - 成都市の小学校教員に対する調査から -
王令薇	NHK社会教育番組『中学生日記』に見る眼差しの研究
船越大地	小中一貫教育改革の現状と教員の負担軽減策 - 学校・教育委員会の差異に着目して -
松本圭将	大学の自律性確保のための大学団体の役割 - 調査研究機能に着目して -
山本陽葉	フィリピンの中高等教育改革に関する研究 - K to 12により新設されたシニアハイスクールを中心に -
LI LINYU	中国高等教育における公的評価の現状と問題点 - 大学・国・公的評価機関の関係性に着目して -
岩田貴帆	協議ワークを取り入れたピアレビューの開発と学生の自己評価力向上の効果検証
周孝誠	大学におけるピア・チュータリングを中心とした統合型学習支援機関に関する研究
梁琳娟	国立大学によるICTを活用した留学生の日本語学習支援に関する検討 - 中国人留学生の日本語学習の実態を踏まえて -
大森俊典	Disciplinary Literacyの読みの側面に関する質的研究 - 心理学と教育学の4領域における比較分析 -
藤村達也	予備校文化と教養主義
矢部東志	外国にルーツを持つ子どもの高校進学に関する実証的研究 - 国籍と入試制度の観点から -
章吉虹	滞日中国人高学歴女性のジェンダー意識に関する考察 - 「専業主婦」志向を中心に -
曹馨予	AI (Artificial Intelligence) に対する現代人の意識 - 日中の若者を中心とした聞き取り調査を手がかりとして
遠藤侑	A・ホネットの物象化論 - 承認論における自己概念に着目して
水野鮎子	箱庭表現に伴う体験についての一研究 - 制作者の主観的体験を軸に -
奥田早苗	遊ぶ子どもの教育人間学 - ニーチェの健康と病気概念を手がかりにして -

卒業論文題目一覧

氏名	論文題目
井上伊織	子どもの後悔と反事実的思考の関連
岡村亮佑	稲垣忠彦による授業論の展開 －「教授学の建設」から「授業カンファレンス」へ－
小山田遥	小学校教諭による児童認知の個人差要因についての検討 －心理的特性に着目して
笠井真由	「奈良の学習法」に関する一考察 －鶴居滋一と山路兵一の実践を手掛かりに－
菊地玄	幼児教育が実行機能に及ぼす影響
北垣佑芽乃	夫婦関係と子どもへの働きかけとの関連
近藤なつこ	建国小学校における韓国語教育の実践 －独自教材の開発に着目して－
杉浦理紗子	ケアの倫理を通じたデューイの民主主義思想の再考
高柳圭秀	タオ指圧における「癒し」 －指圧師遠藤暁及の治療観と東洋的世界観－
田中知輝	英語文法指導における認知文法の意義と課題
中澤歩	戦前日本における「児童図書館」の思想と実践
福島亮介	新聞論調に見る京大天皇事件 －学生の意識と社会の意識の落差に着目して－
藤田湧真	戦後初期におけるユネスコ歴史教科書セミナーと日本の歴史教育
松本昌悟	子ども期の養育態度と高校生のパーソナリティとの発達の関連
南俊行	野生ニホンザルの社会性発達 －母親以外の個体との関わりとの関連
森永梨加	相馬一彦による「問題解決の授業」の意義と課題
山本昌輝	大学入試における共通選抜方式の成立と展開 －共通一次試験を中心に－
山本未帆	他者の存在が乳幼児の学習に与える影響
伊藤宗	建築教育の教育思想 －AAスクールを例に
荒川由布	郷土教育の理論と実践 －桑原正雄の所論を中心に－
草野裕哉	中学高校運動部活動における「コーチ」の再定義 ～スポーツにおける脱人間化とは～
向井雅貴	宮沢賢治の思想と教育実践
青木俊哉	物に対する破壊衝動：攻撃性および創造性との関連
青木琢巳	画像を用いた解釈バイアス修正アプローチによる抑うつと不安傾向の低減可能性
池畑伊織	ワーキングメモリにおける非言語情報の忘却
板舩友暉	現代大学生の時間的展望および将来への考え方と性格特性との関連： 文章完成法を用いた検討

浦田 晃 正	中学時のネガティブな体験に対する教師の関わりと心理的成長の関連
小畑 みさと	CMにおける方言使用に対する評価： エセ方言、標準語との比較
加藤 結 芽	親友との関係における青年の葛藤 －内的作業モデルと心理的距離に着目して－
木原 真 帆	青年期女性の母親から受ける期待に関する一考察 －母親との関係認知に注目して－
坂間 博 康	過剰適応傾向者の自己イメージに関する研究 －質問紙調査とTATの語りを通して－
島津 奈 留	主観的な経過時間判断における自己関連付け効果の検討
中村 文 香	他者の手の運動観察および声の聴取がくすぐったさの評価に与える影響とその個人差
林 実 穂	曖昧さ知覚が創造性に与える影響
平井 志 歩	聴取音楽の感情価と悲しみの対処可能性が気分変化に与える影響：経時的評定に基づく検討
丸山 博 己	うつ病親和者のパーソナリティ －自己愛と役割意識－
水野 廉 也	順向干渉がマインドワンダリングに及ぼす影響
三反崎 隼 人	宗教的信仰と直観的認知との関係
村上 千 理	体育会部活に所属する大学生の、部活へのポジティブな姿勢とチームメイトからのソーシャルサポートの関係
森田 彩 音	商品関与度の性差がWeb広告における単純接触効果に及ぼす影響
藪野 希沙那	微表情の検出とコミュニケーションスキルとの関連性の検討
山口 孝 貴	風景構成法における付加段階について －描き手の主観的体験プロセスの検討から－
吉田 早 緑	青年の家族画を用いた両親間関係の認知に関する検討
川上 将 司	箱庭における制作者の自我と主観的体験の関係について
近藤 啓 太	過敏型自己愛と自己像に関する研究 －「偽りの自己」と「本当の自己」の関係性イメージの観点から－
東原 安 里	描線による身体の動きが創造性に与える効果
洪 立 航	暗黙的信念と青年期における自己形成活動の意味づけとの関連
岩城 帆乃花	自尊感情と自己価値の随伴性が援助要請に及ぼす影響
日吉 祐 也	大学生の被援助志向性と自尊感情の関連性の検討
古澤 文 子	ネガティブな自己開示における被開示者の心理的な痛み －開示された語りと被開示者との間で起きていること－
山田 淳 之	想像することと自己の明瞭性の関連、ならびにそこに介在する心拍の可能性
安部 武	運動部活動におけるスポーツ傷害管理 －高等学校のラグビー部を事例に－
阿部 梨 奈	カンボジアの教育開発における諸外国との関わり ～2014-2018年の教育戦略計画に着目して～

令和元年度卒業論文

庵原 春 菜	学校を核とした地域全体での子どもの育成 －地域学校協働活動における保護者の学校関与に着目して－
今村 光一郎	ジェンダーの視角からみる対抗的公共圏論の再検討 － N.Fraser の理論を中心に－
澳 明 里	シンガポールにおける複言語教育政策の動向
唐 澤 和	小学校受験における「教育する家族」の表象 －地位形成・地位表示機能の観点から－
木下 裕 太	ライトノベルから見る現代社会
坂口 涼 花	学校図書館のプライバシーと図書委員会制度
澤田 真二郎	新卒採用において企業が応募者に求める要件についての研究 －人物像の語りに用いられる主要な語彙に着目して－
仲里 佳 子	学校教育における食育及び食物アレルギー教育の検討
永井 世 大	殺人に関する報道量の推移 －警察統計との差異に着目して－
服藤 佳 織	図書館論のラーニング・コモンズの揺らぎと意義
福井 優 輝	ロシア連邦における補充教育の位置付けと役割に関する考察
松田 康 介	変容する歌壇のジェンダー・ポリティクス －1980年代の『短歌研究』における「フェミニズム」へのまなざしを中心に－
三浦 紗英子	日本型教育の海外展開 －ベトナムでの器楽教育導入及び定着化事業を例に－
吉岡 理 奈	現代日本におけるチャリティロックフェスティバルの可能性
吉田 知 世	ニュージーランドの就学前教育・保育における ICT の活用 － e-portfolio の導入と展開－
渡部 晃 大	ステップファミリーにおける関係性の再構築 －継父の視点から－
速水 溪	旅にまつわる「まなざし」の変容 －「地球の歩き方」の分析を通して－
皆川 真実子	フィンランドの transversal competences に関する考察
秋元 智 行	日韓の学校長要件についての比較と考察

執筆者紹介（執筆順）

曾我部 和 馬	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
市川 和 也	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 2 回生
本宮 裕示郎	教育方法学講座 博士後期課程 3 回生
若松 大 輔	教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
森田 一 尚	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
高谷 掌 子	臨床教育学コース 博士後期課程 1 回生
大澤 直 樹	教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
浅井 健 介	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
森 七 恵	日本学術振興会特別研究員 臨床教育学コース 博士後期課程 1 年
元木 幸 恵	心理臨床学講座 博士後期課程 3 回生
佐々木 大 樹	臨床実践指導学講座 博士後期課程 3 回生
野田 実 希	臨床心理実践学講座 博士後期課程 3 回生
長谷 雄 太	臨床心理学コース 博士後期課程 1 回生
不破 早央里	心理臨床学講座 博士後期課程 3 回生
文山 知 紗	臨床心理学コース 博士後期課程 2 回生
豊原 響 子	臨床心理学コース 博士後期課程 2 回生
松尾 理 也	教育文化学コース 博士後期課程 2 回生
呉 江 城	教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
張 潔 麗	比較教育政策学コース 博士後期課程 2 回生
呉 桐	教育文化学コース 博士後期課程 2 回生
彭 永 成	教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
奥村 旅 人	比較教育政策学講座 博士後期課程 3 回生
岩井 八 郎	教育社会学講座 教授
椎名 健 人	教育社会学講座 助教
園部 香 里	教育社会学講座 博士後期課程 3 回生
香西 佳 美	高等教育開発論講座 博士後期課程 3 回生

※投稿論文数は 29 件、うち 26 件の論文を採択した。

# 京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程

2015.04.14 改訂

2016.05.10 改訂

2018.04.10 改訂

2019.4.17 改訂

## (1) 投稿資格

単著論文の場合、執筆者は、本研究科教員・研究員・研修員および博士後期課程 1 年次以上の大学院学生とする。ただし、研修員については少なくとも受け入れ教員 1 名の推薦、大学院学生については少なくとも指導教員 1 名の推薦のある者に限る。

上記の資格をもつ者が年度途中で身分を変更した場合にも、少なくとも前期に在籍すれば、投稿資格をもつ。ただし、身分変更を速やかに届けて、変更後にも紀要編集委員会と連絡が取れる状態にあることを条件とする。以上の条件を満たさない場合には、投稿資格を失う。

共著論文の場合、本研究科教員が第一著者となり、学内外の研究者（修士課程 1 年次以上の大学院学生を含む）を共著者とするもの、または本研究科研究員が第一著者となり、本研究科教員を共著者とするものに限る。

## (2) 内容

原稿の内容は未発表の学術論文とする。

## (3) 使用言語

原則として自由。ただし、外国人留学生は日本語で投稿すること。

## (4) 原稿枚数

A4 用紙で 1 枚当たり「42 字×38 行」とし、第一著者が本研究科教員の論文は 25 枚（本文 24 枚＋アブストラクト 1 枚）、それ以外の論文は 14 枚（本文 13 枚＋アブストラクト 1 枚）を上限とする。外国語論文の枚数もこれに準じる。

## (5) 投稿要領

投稿に際しては、執筆注意事項指定の書式に従い、原稿を締切日までに指定された提出先に提出のこと。

## (6) 投稿・問い合わせ先

紀要編集委員会

## (7) 原稿の掲載の可否

原稿の掲載の可否については、学外の専門家を含む複数の審査委員による査読を基に紀要編集委員会が決定する。

## (8) 著作権

本紀要に掲載された論文の著作権は本研究科に属する。

---

編集委員 南部 広孝 ファンステーンパール ニールス  
野村 理朗 久富 望

---

---

---

令和2年3月10日 印刷

令和2年3月26日 発行

発行人 京都大学大学院教育学研究科  
代表者 稲垣 恭子

印刷所 株式会社 北斗プリント社  
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2  
TEL (075) 791-6125

発行所 京都大学大学院教育学研究科  
京都市左京区吉田本町

---

---

# Kyoto University Research Studies in Education

No. 66

連続する箱庭制作におけるプロセスの検討

発達障害に関する描画研究の概観

精神科グループホームという〈場〉に関する臨床心理学的考察

「化け込み記者」下山京子再考

エリート大学生の文化的教養習得に対する歴史的考察

中国高等職業教育の提供における業界団体の役割

1930年代中国におけるモダンガールの身体表象

結婚情報のメディア史

働く青年の学びに果たす学習の「場」の役割

「貫戦的」人生パターンと戦後階層システムの形成

「知識人」漱石から「作家」漱石へ

1990年代以降の高卒者の進路分化とキャリア

大学教員の教師としての専門職像とFDにおける課題